

## 手術室運営委員会

委員長 小坂 誠

---

### 手術室運営委員会の概要

手術室運営委員会は手術を安全かつ円滑に遂行することや、手術や麻酔の質と効率を高めることを目指し、毎月1回の予定で開催しています。

委員のメンバーは各診療科の責任者と手術室師長、臨床工学部技士長で構成されています。

2020年は4月から委員長が入江副院長から小坂主任部長に変わりました。またあらたなメンバーとして、4月から森山呼吸器外科部長、佐竹呼吸器外科部長に委嘱をしました。

### 2020年の主な検討事項、手術室での実施事項

#### ■ 1月

- ・オペ室内で使用する高額医療機器の購入希望について検討。  
泌尿器科 バイポーラ電気メス『オートコンⅢ』  
外科 超音波凝固切開装置『CUSA Excel』、水圧式ナイフ『JET2』

#### ■ 2月

- ・オペ室内で使用する高額医療機器の購入希望について検討。  
麻酔科 麻酔器『Flow-C』
- ・4月からの手術麻酔枠について検討。麻酔科医の人数変更による調整。

#### ■ 4月

- ・術中看護記録（ヤギー文書）にKコードを記録する欄を設けることを決定。

#### ■ 6月

- ・当日入院手術を進めていくことを目的とし、当日入院手術を進めるための流れについて案が示され、この検討をおこなった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で在庫不足が懸念される衛生材料について状況の共有をした。滅菌ガウンは在庫不足の対策としてリユース品を導入することとなった。

#### ■ 8月

- ・電子カルテ更新にともなうパソコン停止時間や術中動画システム、ERの体制を確認し、その時間帯の手術受入れや病棟患者を退院させたい場合の対応方法などを検討した。

#### ■ 9月

- ・コスト面の検討から、皮膚ペンを手術キットから外すことを決定した。
- ・遺残を防止するため、術中のガーゼカウント方法のルール見直しを検討した。  
術野での医師が確認、外回りで看護師が確認、術中もしくは手術直後に写真撮影して確認することの徹底が決まった。
- ・オペエリアへの業者立入りのルールが曖昧なため、この管理方法を検討した。ICカードの運用などが検討されたが、次回以降あらためて議論することとなった。

■ 10月

- ・オペエリアへの業者立入りのルールについて、頻回に来院する業者を再度確認し、発行申請書や個人情報の誓約書を提出してもらったうえで IC カードを提供することになった。
- ・入室時の業者が術者と同じスクラブを着ており見分けがつきにくいため、業者にはスクラブの上からビブスを着用してもらうことになった。シーメック職員の制服がバラバラなので統一してもらうことになった。
- ・手術準備室は業者立入禁止であることの再確認をした。
- ・本館の計画停電について実施日や停電中の設備への影響の共有をした。
- ・更衣室のスクラブがサイズによって不足があるとの報告があり、手術室の外で目的外に着用することがないように対策をおこなうことを決めた。

■ 12月

- ・自己血回収のセルセーバーの使用法は血液量が足りないと診療報酬算定ができなくなることが分かった。算定できないケースが生じないように使用方法について調整をすることとなった。
- ・新型コロナウイルス感染症に対しての手術室の対応を議論し、手術予定の患者は全員抗原検査を実施することとなった。またそのための検体採取や判定実施方法を検討した。

これからも麻酔科医の確保、術者の確保、スタッフの教育、設備、機器の管理を行い、高度な手術を安全に行えるよう、必要な検討を進めていきます。

引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

図1

### 診療科別手術室売上額(年次推移)

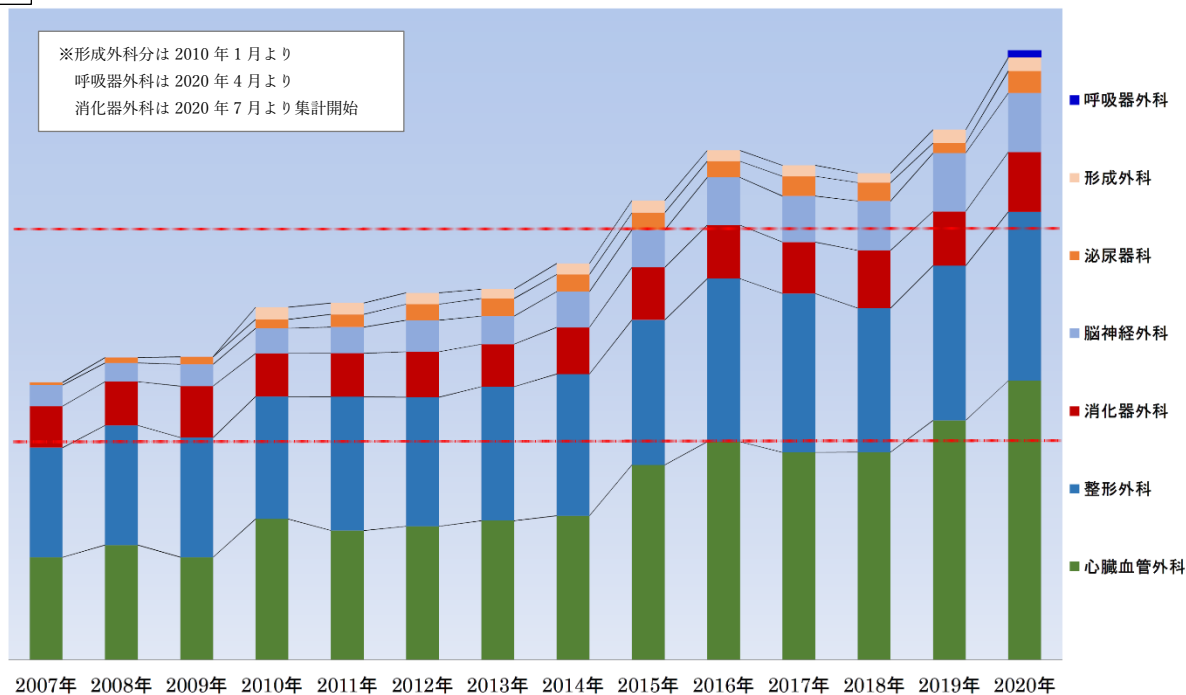


図2

### 手術・麻酔症例数の年次推移

